川崎医科大学総合医療センター（岡山市）で
小児を対象に斜視の視能矯正・訓練を行う長田祐佳視能訓練士

近年、スマートフォンやパソコンの普及に伴い、子どもから大人まで眼（め）の健康管理への意識が高まっている。眼の検査や矯正訓練のみならず、医療・保健・福祉の幅広い領域で活躍するのが眼のスペシャリストとしての国家資格「視能訓練士」である。

川崎医療福祉大学では、1991年から感覚矯正学科 視能矯正専攻で視能訓練士を養成しており、最近5年間の国家試験合格率は100%を誇っている。「人間らしく生きる権利を回復する」というリハビリテーションの理念に沿った多くの視能訓練士を輩出してきた同学科の岡 真由美教授に、視能訓練士の役割や大学での人材育成に加え、2019年4月に開設予定の新学科「視能療法学科」について聞いた。また、感覚矯正学科卒業生で川崎医科大学附属病院に視能訓練士として勤務する小幡 優さんには、職場での役割について語ってもらった。

あらゆる世代の「視（み）る生活」を支える視能訓練士

医療現場で眼の健康を守る国家資格「視能訓練士」

川崎医療福祉大学 視能療法学科

（2019年４月開設予定）

川崎医療福祉大学
感覚矯正学科 視能矯正専攻

岡　真由美 教授

おか・まゆみ　九州保健福祉大学保健科学研究科博士課程修了。1990年より川崎医科大学附属病院、岡山市内の病院に勤務。2007年川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科准教授、15年より現職。日本視能訓練士協会指導者等養成委員長。視能訓練士。

眼科診療を支える 眼のエキスパート

―「視能訓練士」とは、どのような職業なのでしょうか。

視能訓練士は1971年に誕生した国家資格です。現在、視能訓練士は約1万5千名で、多くは眼科に勤務しています。小児から高齢者までの眼の健康を守り、「視（み）る生活」を支えています。

医療福祉の領域で視能訓練士は、眼科一般検査として視力、屈折、眼圧、視野、眼底などを調べるため、さまざまな精密機器を用いた視能検査を行います。患者さんの主訴や病歴に応じて疾患を想定し、視能検査で適切な評価を行うことは、医師の診断や治療、患者さんの視機能の維持と向上につながります。さらに、弱視や斜視、眼球運動の障がいに対する視能訓練やロービジョンケア（低視覚者への支援）も行います。保健・教育の領域では、3歳児健診や企業検診などにより視能障がいの早期発見に努め、視機能に関する指導を行います。

眼のリハビリテーションの専門家

―眼のリハビリテーション（視能療法）には、どのようなものがありますか。

弱視や斜視、眼球運動の障がいに対する視能訓練やロービジョンケアがあります。例えば弱視の視能訓練は、小児の視機能の発達を促すため、眼鏡を装用して網膜上に鮮明な像を与えたり、良い方の眼を隠したりして弱視の眼を積極的に訓練します。また斜視の視能訓練では、眼の位置をまっすぐに整え、両眼を同時に使う訓練を行います。ロービジョンケアでは、眼科治療でも視機能が十分に回復しない低視覚者に視覚的補助具の選定や福祉制度の情報提供を行います。

このように、視能訓練士は見え方に問題のある方の視機能を評価するとともに、患者さんごとに異なる視覚に対する考え方も考慮に入れながら、視能療法を立案して実施します。

4年制大学として 日本で初めて設立

―視能訓練士の養成実績について教えてください。

本学の感覚矯正学科 視能矯正専攻は、1991年に視能訓練士を養成する4年制大学として日本で初めて設立されました。現在でも中四国地方では唯一の4年制大学であり、全人教育を受けた「視（み）る生活」を支える専門家として、社会に貢献する人材の育成を目指しています。卒業生は、1期生から24期生まで約700名に及び、ほぼ全員が国家資格を取得しています。最近5年間の国家試験合格率は100%です（全国平均90%前後）。

就職率も100%で、全国の大学病院や眼科医院で活躍しています。また、大学院修了者は視能訓練士養成校の教員としても活躍しています。

学内の実習室で視能矯正学の指導を行う
山下力准教授（右奥）

実践力を養う 大学病院での実習

―病院実習の内容や特長を教えてください。

本学は川崎医科大学附属病院が隣接していることから、早期の病院実習で技能とチーム医療を学ぶことができるのが最大の特長です。1年次には同病院で早期臨床体験学習を行い、医療福祉への関心を高め、2年次からは、専門科目の講義と実習を基に修得した視能検査技術の実践、3年次には複数の医療現場を体験し、4年次には前期6週間、後期6週間の計12週間にわたる学外での病院実習で知識と技術の統合を図ります。

このような実践的な講義や実習が可能な恵まれた環境で、チーム医療の一員として患者さんに寄り添えるエキスパートを養成しています。来年度からは、新設される「視能療法学科」として教育体制のさらなる充実を目指します。

高齢・情報社会で 高まるニーズ

―小児や中高齢者が眼の健康のために気を付けることは何でしょうか。

小児期は視覚発達が著しく、視環境の影響を受けやすいので、視覚発達を妨げる要因を早期に発見し治療につなげることが大切です。そのためには、3歳児健診の受診が重要です。また、若年者の近視が増加する傾向にあり、環境要因の改善が求められています。

中高齢者では、加齢に伴って老眼や白内障、緑内障、網膜疾患などになる可能性が高くなります。眼の疾患は、高血圧や糖尿病など全身の病気に伴って生じる場合もあるので注意が必要です。

高齢化が進み、情報社会で眼が酷使されており、あらゆる世代で眼の健康に関心が持たれています。眼科疾患の治療や検査に最先端の技術が取り入れられる中、高度な知識や最新の機器操作を身に付けた視能訓練士の重要性は、ますます高まっていきます。

川崎医科大学附属病院（倉敷市）で高齢者への視能検査を行う荒木俊介視能訓練士

眼の健康を願い 信頼される視能訓練士を目指して

感覚矯正学科　視能矯正専攻
2016年度卒業
川崎医科大学附属病院勤務

視能訓練士 小幡　優 さん

―視能訓練士を目指した動機や目標について教えてください。

視能訓練士の仕事に興味を持ったのは、川崎医療福祉大学のオープンキャンパスがきっかけでした。現在は、川崎医科大学附属病院で視能訓練士として働いています。視能訓練士は、弱視や斜視の視能訓練、診療や治療方針を決定するための視機能に関わる検査などを行う国家資格です。治療方針の基となる検査結果を整えたり、訓練を通して患者さんが快適な生活を送れるように支援しています。

本学は、中四国で唯一の視能療法学について学べる4年制大学で、附属の大学病院での臨床実習では、先輩方の仕事ぶりに大きな刺激を受けました。また、患者さんと関わる中でコミュニケーション能力が身に付いたと実感しています。患者さんの言葉や思いをくみ取り、喜んでくださった時に最もやりがいを感じています。今後もさらに技術を磨いて、患者さんや医師から信頼される視能訓練士になっていきたいです。

眼科外来での視野検査

川崎医療福祉大学 視能療法学科　― 2019年４月、新学科として開設 ―

川崎医療福祉大学 視能療法学科は、視覚障がいの検査や症状の分析を正しく行うための知識と技能を身に付け、患者さんの不安を和らげる視能訓練士を養成します。本学科は、臨床経験豊富な実務家教員の指導により、福祉の心を涵養（かんよう）しながら、患者さんのために他職種と連携する協調性やコミュニケーション能力を育てるとともに、現場で活（い）きる知識とスキルを修得させます。

視能訓練士を養成する４年制大学は全国でも少なく、中四国地方では唯一です。本学科では隣接する川崎医科大学附属病院をはじめ川崎医科大学総合医療センターという２つの大学病院を中心に実習を行い、豊富な臨床経験を積むことができます。このように視能訓練士としての技能を体系的かつ実践的に学んだ卒業生たちは、岡山県内だけでなく全国の医療機関で活躍しています。

新学部誕生。4つの専攻は、新しく学科として開設

医療技術学部		NEW リハビリテーション学部
リハビリテーション学科 理学療法専攻／作業療法専攻	→	理学療法学科 作業療法学科
感覚矯正学科 視能矯正専攻／言語聴覚専攻	→	言語聴覚療法学科 視能療法学科
臨床検査学科 診療放射線技術学科 臨床工学科 臨床栄養学科 健康体育学科 ※		

「リハビリテーション学部」では、臨床現場で実際に活躍している療法士を教員として、最新の機器を使いながら専門知識・技術と豊かな人間性の備わった人材を育成します。

※医療技術学部は、新年度より５学科で構成となります。

川崎医療福祉大学
岡山県倉敷市松島 288　TEL.086-462-1111(代表)